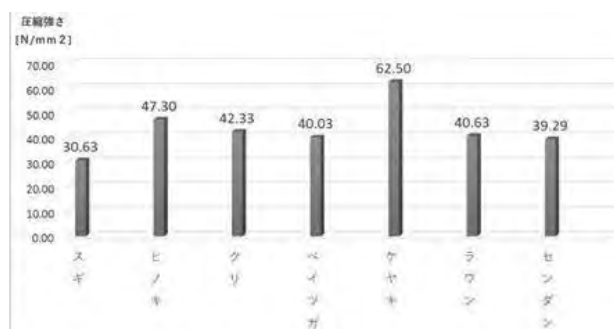


試験結果として、センダンはスギよりも十分な強度があり、ベイツガ、ラワン、クリなどにも近い強度を有していることが分かった。この結果から、強度が必要なベンチの座面に、センダンを使用しても問題がないことが確認できた。



(4) 丸太脚ベンチの製作 (2脚)

作製した図面に基づいて、材料を注文し、加工・組立て・塗装の流れで製作を行った。

組立てる前に板に座ると4mm程度のたわみが見られたが、組立てる際に60mmの角材を入れたことにより、完成したベンチに座ってもたわみは見られなかった。



(5) 角材組ベンチの製作 (2脚)

1枚の板に割れが見られたため、割れ止めとしてチギリを入れた。また、時間の経過により反りが出る恐れがあったため、小柳様に教えていただいた吸い付き棧を接合部に使用した。



4 まとめ (課題や今後の展望)

本プロジェクトにより、生徒達はセンダンについての理解を深め、センダンを利活用したベンチを寄贈することで、地域貢献ができた。今後は、地球に優しく、産業の活性化に寄与するセンダンの生育や活用が課題となる。



地域とつながる

(学校名) 福井県立美方高等学校

(校長名) 北村 徹

(報告者) 長谷 真由美

1 目的

地元企業や地域と連携し、地域の課題解決や地域の魅力向上に取り組む。専門家による講義・実習をすることにより、専門的な知識と技術を身につけ、それを活用する力や様々な人との人間関係を構築する力を育成する。また、将来地域社会や地元産業を担っていける力を育成する。

2 産学連携コーディネーター（産業教育アドバイザー）

中村 翔也 (MARINE FARM NAKAMURA)

3 内容・成果

【生活情報科】

10月14日 若狭町 SDGs イベント 若狭町ブライダルドレスコレクションに参加
ドレスをリメイクして作品を作り、ファッションショーを開催。

11月 5日 外部講師による講義：ことは理 榎谷 真澄 氏 (4時間)
次年度5月に予定されているイベントに向けて、マナーや接遇、コミュニケーション技術などについて、講義とグループ演習を通して学んだ。



11月14日 外部講師による講義：カラリスト 中村 裕美子 氏 (4時間)
色彩の基礎とパーソナルカラーについて講義とグループ演習を通して学んだ。
学んだことをもとに、10月に行ったドレスのリメイク作品の振り返りを行い、
1・2年生への課題研究発表会につなげた。今後の活動にも幅広くいかせる内容となった。



12月13日・1月30日 外部講師による講義：関西和装学院 小浜校 佐々木 寿々江 氏
次年度5月に予定されているイベントに向けて、浴衣の着付けや和装時の立ち居振る舞いや礼儀作法について学んだ。同じ内容で別日に、2学年で行った。



【食物科】

現在、本校食物科3年生の課題研究の授業において、飲食業の営業許可を持つ厨房施設をお借りして飲食店の運営について学ぶ一日カフェ営業実習を取り入れている。今年度は、1班7～8人の4班に分かれ、5月と6月でそれぞれ1回ずつ、計8回、美浜町の生涯学習センターなびあす内の飲食スペースをお借りして、自分たちで調理したランチを提供した。また、秋には、美浜町のこるば、若狭町のJR十村駅のほっとむらをお借りして、メニュー考案からチケット販売、原価計算まですべて自分たちで行った。

なびあすの利用は、空きスペースになっていた厨房施設を食物科生徒に積極的に活用してもらいたいという、地域や施設運営者からの声掛けからによるもので、学校としても、学科としても、地域の施設の活用、地域の食材の活用をめざして、課題研究の学習内容に取り入れることにした。

地域の方々に喜ばれる、食物科の取り組みとして、お金をいただくに値する料理の提供や接客を、この一日カフェによって学ばせていただいている。

カフェのメニューの考案に関しては、地元食材を活用したランチや、デザートを考案、試作、検討しているが、生徒たちが今までの学習で身につけた知識、経験、技術等、では不十分なところもある。そのため、1、2年のうちから、外部講師やアドバイザーのご指導のもと、3年生でのカフェメニュー考案の参考になるような地域の食材を取り入れた調理実習を取り入れたり、話し合い等でアドバイスをいただく時間を設定したりして、3年の課題研究で、地域の方々に喜ばれるメニュー開発を行うことにつなげていきたいと考え取り組んだ。

5月9, 10, 14, 21日 Café de Mikata in なびあす (3年)
一日24食限定のランチ販売



6月7, 18, 21, 25日 Café de Mikata in なびあす (3年)
一日24食限定のランチ販売



11月9, 17日 Café de Mikata in こるば(3年)
一日64食限定のランチ販売



11月23, 30日 Café de Mikata in とむら(3年)
一日64食限定のランチ販売



2月13日 産業教育アドバイザーによる実習(2年)
敦賀真鯛を使った定食を教えていただき、来年度のカフェメニューの考え方を学んだ。



2月19日 外部講師による実習(1年)
地域の食材を使った和菓子講習。和菓子作りの基礎を学んだ。



2月26日 産業教育アドバイザーによる実習(1年)
敦賀真鯛を使った和食講習。調理していくうえで最も大切な包丁の研ぎ方を教わった後、敦賀真鯛を使った調理実習を行った。



4 まとめ（課題や今後の展望）

生活情報科では、来年度に依頼を受けているイベントに向けて、講師の先生をお呼びして必要な知識や技術を学ぶことができた。例年、年度途中で依頼があることも多く、できる範囲で参加させていただいており、地域とのつながりは継続している。

食物科では、課題研究において地域に出かけていき、カフェ実習を行うことを数年続けてきた。今年度はもともと空きスペースになっていた場所をお借りして行ったが、継続して行ってほしいというお声もいただき、大変好評であった。しかし、授業との兼ね合いで平日営業がなかなか難しく、秋は休日に、2か所の厨房をお借りして行った。営業日にお借りするということで、大変なご無理を言ってお願いしている部分がある。カフェを営業するという実践的な活動は生徒たちにとって大変有意義な体験であり、得られるものも多い。さらに、地域の方にも喜んでいただいている。継続していきたいが、場所の問題は常に存在し、毎年お借りできる場所の確保から始まる。学校側の都合だけで動くことができず、日程調整や営業の仕方、お互いのカフェを営業する狙いのずれをうまく擦り合わせていくことの難しさもある。校内にカフェスペースのような場所があれば、と常々感じる。

来年度もお借りできる場所の確保からはじまるが、今年度教えていただいた地域の食材も使いながら、地域の食材を広くアピールするといった観点も取り入れながらカフェ営業が行えるとよいと考えている。

産業界等との連携を生かした総合産業高校の特色ある活動

(学校名) 福井県立若狭東高等学校

(校長名) 金森 誠

(報告者) 水島 智史

1 目的

課題研究などを通じて県内の企業等と連携し、地域の課題や魅力を発見して解決策を見いだす探究活動に取り組むことで、生徒の専門性の向上を図る。さらに、Green Project や子ども向け食育イベント(チルフェス)、地元商店街でのイベントなどの場面において、探究活動で得た成果について世代をまたいで披露することで、本校の教育活動を地域に発信する。

2 産学連携コーディネーター(産業教育アドバイザー)

東京農業大学農学部農学科 高畑 健 教授

3 内容・成果

(1) 専門学習を深化させるプロジェクト

【プロジェクト1 食育・調理】

①連携先

薬膳料理店 café watoto、洋菓子店 Calm

②内容

6月のGreen Projectに向けて、来場者に喜んでもらうためのメニューの研究開発を行い、当日は生活創造科特製カレーやラグビーボールメロンパン、芝生シフォンケーキなどのメニューをイベント参加者に提供した。7月18日の保護者会の日には、保護者に向けてパンとシフォンケーキの販売会を行った。また、7月19日にはプレ高校生レストランを校内の先生方に向けて実施。夏が旬の食材を使用したオリジナルランチメニューを20食販売した。先生方には味や盛り付けに関するアンケートを行い、秋の高校生レストランにつなげるためのアドバイスをいただいた。7月20日には子ども向け食育イベント「チルフェス」を実施。校内で収穫した野菜を使用した夏野菜カレーや冷やし中華をイベントに参加した子どもたちに提供した。電子機械コースの新幹線や吹奏楽部による演奏など、他学科や部活動と連携してイベントを盛り上げた。

10月26日には2回目の高校生レストランを実施。10月上旬の彦姫祭(学校祭)で来校者にチラシを配布して宣伝活動を行い、保護者や地域の方々にむけて秋が旬の食材を使用したオリジナルランチメニューを販売した。11月16日には2回目のチルフェスを開催。Green Projectで完成した芝生グラウンドでのモルック体験など、新しい企画を取り入れた。

実施月	具体的内容
4月	調理班や食育班などで研究、試作開始
5月	中学生に向けた活動内容の説明会
6月	Green Projectにて、軽食提供(調理班、食育班)
7月	保護者向けパン販売(調理班) 校内向け高校生レストラン【夏メニュー】(調理班) 子ども向け食育イベントチルフェスの実施(食育班)
10月	学校祭にて軽食販売(食育班) 高校生レストラン【秋メニュー】(調理班)



実施月	具体的内容
1 1 月	調理講習会 講師 清水氏 3 年生活創造科対象 クリスマスケーキ作りとデコレーションの仕方について学習
1 2 月	調理講習会 講師 梶本氏 2 年生活創造科対象 冬の食材を使用したランチメニューを調理・試食 見栄えよくワンプレートに盛り付けるコツを学習



③成果

さまざまなイベントを通して、自分のアイデアが形になり、自分の作ったもので誰かが喜んでくれるという経験をする中で、生徒たちは大きな達成感を得ることができ、自信にもつながっている。また、他学科や部活動と連携することで、お互いの活動内容を理解することができ、これらのイベントが学校を PR するよい機会にもなっている。大量調理の際には手際の良さが必要になるが、生徒たちは少しずつ経験を積み、仲間とコミュニケーションをとりながら、計画に沿って段取りよく作業を行う力を身につけている。調理講習会では、プロの方にその技術だけでなく、プロとしてのこだわりなどについても教えていただき、誰かのために調理する際の心構えについて見つめ直すよい機会となった。

【プロジェクト2 園芸生産】

①連携先

若狭地域の農家、地元製菓業者、小浜市社会福祉協議会、株式会社栃本天海堂
東京農業大学農学部農学科 高畑 健 教授

②内容

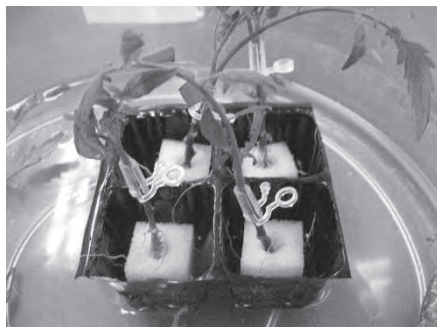
薬用植物「コウギク」の産地化に向けて、コウギクの苗を挿し木から生産した。普及活動として広告を作成し、6月13日には小浜市コミュニティセンターにて農家23名にコウギクの定植方法や生育管理などを実演しながら説明した。本校の圃場にて、コウギクの「収穫祭」を11月7日に企画し、集まった農家10名にコウギクの頭花の摘み取り方や生花から乾燥花ができるまでの一連の流れを教えた。その後、薬草パンやコウギクのブレンドティーなどをふるまった。コウギクの生花の収量は52kgであり、これを乾燥させた乾燥花は4.8kg生産できた。このうちの3.5kgを株式会社栃本天海堂へ出荷した。残りは来年度の新商品開発の原料として保存した。このような活動内容を農業クラブ年次大会プロジェクト発表会や本校の課題研究発表会において、「薬用植物コウギク～産地化に向けて～」と題して発表した。

また、水耕によるミニトマトの栽培・研究を継続しており、昨年度は果皮が薄い高糖度の果実を収穫することができた。しかし、夏季の高温により生育障害が発生し、夏秋期の収穫量が著しく低下する課題がある。そこで、夏秋期にも安定して高糖度の果実を収穫できる栽培技術を検討した。ペピーノに単為結果性のミニトマト「ネネ」を接ぎ木して水耕で栽培して、生育や果実の品質を調査した。また、東京農業大学教授を招聘し、生徒と地元の農業関係者を交えて野菜のブランド化に関する講習会を開催し、生徒に地元農業者の収穫物に対する想いや販売の実際について学習する機会を設けた。

実施月	具体的内容
4 月	※コウギクに関する活動 コウギクの苗450本生産（挿し木）
5 月	コウギクの苗育苗と圃場整備

実施月	具体的内容
6月	コウギクの苗（定植方法について説明会を実施）、苗の提供 （本校圃場178本、若狭地域の農家200本提供）  
7月	農業クラブ年次大会プロジェクト発表会にて、「薬用植物コウギク」と題して発表
8～10月	生育管理（除草、杭打ち、倒伏防止作業）
11月	コウギクの開花・収穫、生花の収量52kg 摘み取り後、乾燥花の乾燥開始、収穫祭開催
12月	乾燥花4.8kgが完成
1月	株式会社栃本天海堂へコウギクの乾燥花50gを検査 校内課題研究発表会 検査の結果適合となり株式会社栃本天海堂へ出荷3.5kg    
4月	※トマトの栽培実験に関する活動 研究計画、実験計画の立案
5月	トマトの品種として単為結果の特性がある「ネネ」を選定した 接ぎ木方法の検討
6月	接ぎ木に使うトマトとペピーノの育苗を開始 ペピーノを台木としてトマトを接ぎ木
7月	新規の野菜としてナランジアとココナの種子を入手して播種
8月	苗の栽培管理 接ぎ木苗を水耕装置に定植 ナランジアとココナを水耕装置に定植

実施月	具体的内容
9月	栽培管理、生育調査
10月	トマトの果実を収穫して品質調査を開始
11月	トマトの果実を収穫して品質調査 データのまとめ
12月	まとめ、高校生探究フォーラムでポスター発表 東京農業大学高畑健教授による野菜のブランド化に関する講演会 産業教育アドバイザー、山本聡氏を招いてポスター発表を行い、助言いただく
1月	校内課題研究発表会



③成果

地域の農家に薬用植物「コウギク」の定植方法や生育管理など説明し、マスメディアを通して、コウギクの栽培の普及に繋がった。農家からの生育に関する質問などあり、生徒が自信を持って答えていた。普段の授業では学べない良い経験ができた。コウギクの開花時期に合わせて、「収穫祭」を企画し、集まった農家にコウギクの摘み取り方や乾燥花ができるまでの流れを説明した。収穫後には薬草パンやコウギクのブレンドティーをふるまうなど良い交流ができた。これらの活動を通して、たくさんの方と会話しながら、6次産業化の体験ができ、コミュニケーション能力を高められた。

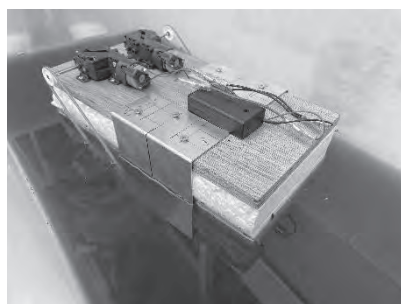
トマトの接ぎ木に関する実験は、接ぎ木苗の作成に成功して10月から果実の品質調査を開始した。夏季の高温による着果不良が心配されたが、単為結果性の品種を使用したため、ホルモン処理をしなくても着果した。果実品質を調査した結果、ペピーノに接ぎ木することで、糖度と酸度の上昇が認められた。実験結果についてまとめ、連携先の東京農業大学教授とトマトを生産している地域の農業生産法人の代表にポスター発表した。さらに、高校生探究フォーラムにも参加した。また、生徒の発案により、新規の野菜として南米原産のナランジアとココナを入手して、栽培したが、収穫には至らなかった。東京農業大学教授を招聘した講習会を12月実施し、農産物のブランド化について生徒が学習することができた。

【プロジェクト3 アイガモロボット】

①内容

地域の過疎化や農業人口の減少などの課題がある中で、水田の雑草を抑制するためのアイガモロボットを製作し、本校の農業科を含む地域の水田での運用を目指す。また、電気・機械科電子機械コースと同科電気コースの枠組みを超えて課題研究を行うことで、それぞれの専門性を活かしたものづくりを行うなどの協働的な探究活動を展開する。

実施月	具体的内容
4月	研究計画を立て、水田の調査とアイガモロボットの設計や製作方法を検討 探究交流会に向けた資料作成
5月	本校探究交流会で探究活動の活動計画の発表・ 魅力発信を行い、中学校の探究学習との連携を 提案
6～7月	既製品である水上を航行するロボットを組み立 て、それを活用した実験を行った。アイガモロ ボットの試作品を設計
9月	ロボットに搭載するモータとギアの組み合わせ を変えて、性能を測定
10～ 11月	アイガモロボット本体を製作
12月	完成したロボットの試運転 高校生探究フォーラムで発表
1月	本校工業科の課題研究発表会にて、最終報告



②成果

今回、電気・機械科では初となるコースの枠を超えた課題研究グループを編成して取り組んでいるが、それぞれの3年間の専門科目での学びの長所を活かした活動が展開できている。特に、部品の加工や組み立てでは電子機械コースの生徒を中心に、モータの制御や電気の配線においては電気コースの生徒が中心となって作業をする姿が見られる。

【プロジェクト4 コーヒーの商品開発・販売】

①連携先

SEE SEA PARK 内 宮古島珈琲焙煎所 友利 裕哉 氏

②内容

高校生でも飲みやすいコーヒー」をコンセプトとして商品開発を行っている。昨年度から活動しており、昨年度は「若狭東ブレンド」を開発し産業教育フェアなど学校関連のイベントで複数

回販売した。今年度は、より多くの人に飲んでももらいたい、より商業科らしい活動にしたいという思いから地元の小売店への営業活動を行った。また、継続的に直接販売を行い、より多くの人に「若狭東ブレンド」を知ってもらいたい。

実施月	具体的内容
4月	昨年度開発した「若狭東ブレンド」の試飲
5月	連携先企業にて、「若狭東ブレンド」の値段交渉や商品の詳細を学ぶ
6月	営業活動に向けて、プレゼン資料やPOP広告の作成
9月	「道の駅 若狭おばま」に営業活動
10月	地域イベント「まちなか夢どおり」にてコーヒー販売
11月	「道の駅 若狭おばま」にて販売開始
	  営業活動の様子（道の駅若狭おばま） 宮古島珈琲焙煎所 友利様に 商品の詳細について質問を行っている様子
1月	「道の駅 若狭おばま」の販売（第2回納品） 1度目の納品した商品が完売し、2回目の納品   駅長様に納品している様子 道の駅に売られている様子

③成果

目標としていた小売店の販売を成功することができた。営業活動を通じて地元企業の方と関わりをもてたことも成果の一つである。また、直接販売を行うことができた。1年間を通じて「若狭東ブレンド」を多くの人に飲んでもらうことができた。

（2）学習成果を地域に披露するプロジェクト

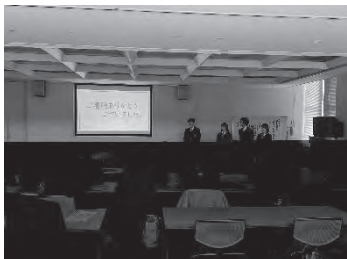
【プロジェクト5 地元商店街の活性化（お化け屋敷）】

①連携先

ウェルザード 氏（小説家・漫画家・妄想家）

②内容

地元商店街で開催されるお祭りにて、イベント（お化け屋敷）を行った。地域創生をテーマに研究を始め、5年計画を練った昨年に続いての2年目の活動である。単発のイベント開催から、複数回開催、中学生との協働イベント開催など、規模や回数をパワーアップさせて商店街に人を増やすことを念頭に活動した。

実施月	具体的内容
4月 6月 7月 10月	研究開始 外部講師による講習会 中学生との探究交流 商店街で開催されるお祭りでの出店 若狭青年会議所・商店街の方と協働魅力発信プロジェクト  
12月	福井市で開催された商業学科発表会で発表 リブラ若狭にて開催された高校生探究フォーラムで発表  
1月	本校ビジネス情報科の課題研究発表会にて、最終報告

③成果

商店街を活性化するための一つのコンテンツとしてお化け屋敷を確立することができた。また、探究を通して中学生との交流もできた。若狭青年会議所の方・商店街の方と協働して魅力発信も行うことができたので、さらに商店街の方と交流を深められる内容を模索していきたい。

今回行った2年目の研究をたくさんの場所で発表をすることができて、より多くの方に周知することができた。3年目に研究が継続されることを期待したい。

(3) 本校主催の学習成果を披露する活動

生徒の研究の披露や地域の方との交流の場として、本校で6月にGreen Project、7月に子ども向け食育イベント（チルフェス）、10月に高校生レストラン、彦姫祭（学校祭）、11月に2回目の子ども向け食育イベント（チルフェス）とGreen Project、1月に中学生対象課題研究発表会などを開催した。

(4) 産学連携コーディネーター（産業教育アドバイザー）の活動

① 1回目：12月18日（水）対面で実施

本校の概要を説明し、農場に移動して生徒の実習の様子や栽培施設を視察した。本校卒業生の農業生産法人代表取締役の山本聡氏も交えて、地域や日本の農業の様子について話をした。また、山本聡氏同席のもと、生徒対象に「野菜のブランド化」に関する講演会、課題研究トマト研究班のポスター発表に対する指導助言をいただいた。

② 2回目：1月29日（水）オンラインで実施

12月に視察した結果を踏まえて、産業界との連携、実習農場のより良い運営、高校生に身に付けてほしいこと、ICTやAIの活用などをテーマにして、大学での事例も交えて本校の教育活動に対する助言をいただいた。



4 まとめ（課題や今後の展望）

今年度は5つのプロジェクトを立ち上げ、各学科の特色を生かして活動することができた。学習成果を披露する場では、魅力向上事業で取り組んでいるプロジェクトが中心となって活動し、職業系高校の魅力を学校の内外に発信することができた。中学校と連携した活動も複数実施したが、実際に活動する段階になると時間や内容の調整が難しいところもあり、異校種と連携した生徒主体の活動という視点でみると課題が残った。

本事業で取り組んでいるプロジェクトは本校の魅力向上に必要であると考えられる。そのため、産業教育アドバイザーなどの助言をもとにして、今後もこれらのプロジェクトを発展させるように活動していきたい。

いま、プロ人材高校がおもしろい!!

(マイスター・ハイスクール)

第1号

マイスター通信

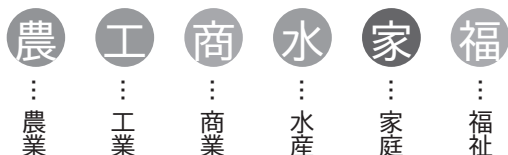
プロ人材高校(マイスター・ハイスクール)とは?

変化の大きい時代に、私たちは自らの人生をどう切り拓いていけばよいのでしょうか？
これからは「手に職」すなわち「技能を磨く」ことが、先の見通しにくい未来を生き抜いていくカギとなります。

今回初めて発行する「マイスター通信」では、福井の職業系高校の取組や、社会でイキイキと活躍する先輩たちの紹介を通して、プロフェッショナルな人材を育成する「プロ人材高校(マイスター・ハイスクール)」の魅力を皆さんにたっぷりとお届けします！



【職業系の学科をこのマークで表します】



【福井県の県立高校】

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/koukou/sixyoukai.html>

表中の○や青字の設置学科名をクリックして、各学校の教育活動などをご覧ください。





工商 学科連携で焼き印製作

地域から焼き印製作の依頼を受け、商業科のビジネスコースがデザインを担当し、工業科の機械コースが金属加工を担当するなど、学科間の連携で進めました。この取組を通じて、学んだことを生かす楽しさを実感することができました！



農 酒粕を活用した商品開発

地元のまちづくり協議会と連携して、若い世代に苦手意識のある「酒粕」を使ったおいしい商品を開発しました。

「酒粕タルト」や「酒粕プリン」など、たくさんの方に喜んでいただける商品を販売することができ、大変好評をいただきました！



地元で活躍する先輩の声

学びがつなぐキャリアと地元愛

坂井高等学校
ビジネス・生活デザイン科 ビジネスコース 令和元年度卒
鵜飼 茉莉 さん（丸岡中学校出身）
うがい まり



就職先
レンゴー(株)

私はビジネスコースに入学後、事務職に就くことを目標に、簿記や情報処理、マーケティングなど幅広い分野を学び、多くの資格を取得して、レンゴー(株)金津工場に就職をしました。総務部総務課で、現預金や買掛金の管理、伝票発行などの経理業務を担当し、学んだことを生かすことができていると感じています。

また、観光の授業での校外学習や福井弁の方言冊子制作、課題研究での地元住民対象の公開講座などで地元の方や留学生と交流し、地元の魅力を考え発見することもできました。これからも学びを生かして地元に貢献したいと思います。

整備と運転で地域を支える

坂井高等学校
機械・自動車科 自動車コース 令和3年度卒
山口 颯大 さん（丸岡中学校出身）
やまぐち そうた



就職先
京福バス(株)

私は坂井高校の自動車コースで、座学や実習を通して自動車について基礎から学びました。卒業時には三級自動車整備士資格を取得しています。

卒業後は、京福バスに就職しました。最初の2年間は整備士として働き、現在は運転士をしています。バスの運転をするにしても、万が一バスが故障した時のために、車の知識が必要です。私は自動車コースで学んだことや整備士として働いた経験が、実際にバスを運転する上で役に立っていると感じています。

これからも、学んだことを生かして、地域の人に安心して乗車してもらえる運転士を目指していきます。



商 「道の駅」で開発商品を販売

北陸新幹線の福井県開業に伴い、海外からの観光客が増える中、地元カフェと連携してヴィーガンスイーツを共同開発しました。開発した焼き菓子やプリン、地域の「道の駅」で販売し、ラベルや看板の制作にも取り組みました！



工 地元のお祭りで地域交流！

地元のお祭り「味真野万葉祭」で、製作したミニ電車を運行しました。さらに、乗車待ちの時間も楽しんでもらえるように券売機も製作しました。地域の子供たちと交流しながら、地元への理解と親しみを深めることができました！



地元で活躍する先輩の声

学んだ土木技術で地域に貢献

武生工業高等学校（現武生商工高等学校）
都市・建築科 令和元年度卒

小形 和奏 さん（武生第三中学校出身）
おがた わかな



就職先
(株)帝国コンサルタント

私は現在、測量に関する仕事に携わっています。高校の授業で、トータルステーションやレベルなどの測量器械を使うことがありました。実際に測ってみると難しかったのですが結果が計算によって数字として出ることでもとても分かりやすいと感じていました。聞くよりも体を動かして経験することの方が私自身覚えやすかったこともあります。その経験もあり、仕事をするなら事務などの座ってする作業より体を動かす業務に携われたらと思いました。

現在はドローンの操縦をしていて難しく感じることもありますが、とてもやりがいを感じています。

プログラミングで地元活躍！

武生商業高等学校（現武生商工高等学校）
情報処理科 令和4年度卒

坂井 杏菜 さん（武生第二中学校出身）
さかい あんな



就職先
(株)オーディオテクニカフクイ



私は武生商業高校 情報処理科で主に簿記、プログラミングについて学びました。卒業後、県内企業に就職し、日々仕事に励んでいます。入社1、2年目は情報システムに関する業務に携わり、Excelのマクロ作成や会社で使用するPCのセットアップを行っていました。現在は主に経理関係の業務を行っています。

私が商業高校を卒業してよかったと思う点として、情報処理科で学んだプログラミングの知識を生かして業務効率化を図るためのマクロを作成できたことです。また、現在も学生時代に学んだ簿記の知識や、ビジネス活動を行う上での技術を生かして経理業務に励んでいます。



水 「まち歩き」で地域を知る！

日々教室で行っている対話の実践として「まち歩き」に取り組み、地域の方にインタビューを行っています。

地域の課題を対話から発見し、探究学習へとつなげます。2年生は、研修旅行先である台湾での「まち歩き」の練習もかねています！



水 水産加工会社と商品開発

これまでも地域と連携して、「宇宙鯖缶」や海洋プラスチックゴミを活用した「若狭塗り箸」などを商品化しました。

今年度は、地域の水産加工会社と連携し、大漁だったシイラをペペロンチーノ風に加工した「ペペロンシイラ」を開発中です！



地元で活躍する先輩の声

地元のまちづくりでかがやく！

若狭高等学校
海洋科学科 令和5年度卒
出口 彩奈 さん（小浜中学校出身）
でぐち あやな

水



就職先
(株)まちづくり小浜

私が海洋科学科で学んだことは、協調性です。課題研究で課題を解決するために、仲間と試行錯誤したり、発表会に向けて資料などを作り上げたり、何かを成し遂げる行動を共にすることで協調性が身につきました。

そして、協調性は働く上でとても大切でした。仕事では、状況に応じて、臨機応変に対応することが大事になります。周りを見て、コミュニケーションを取り合う事でひとつひとつ作業が完成していきました。お店の雰囲気を良くしていくために、協力しながら店作りをしています。

地元企業で対話スキルを活用

若狭高等学校
海洋科学科 令和5年度卒
千 皓雅 さん（小浜第二中学校出身）
せん こうが

水



就職先
進工業(株)

海洋科学科にはp4cという対話を重視した授業があり、ディスカッションやフィードバックを通して自分の意見をうまく表現する力や、他の人の意見を理解する力が身につきました。

p4cで得た経験は、仕事での報告や提案、交渉にとっても役立っています。特に、相手に効果的に情報を伝えたり、互いの意見を尊重しながら交渉を進める時に、p4cで身についた力が活躍しています。

いま、プロ人材高校がおもしろい!!
(マイスター・ハイスクール)

第2号

マイスター通信

プロ人材高校(マイスター・ハイスクール)の取り組み

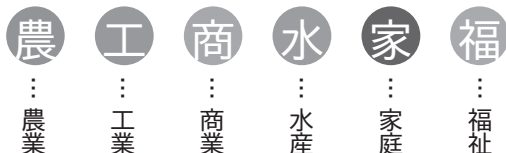
変化の波を乗り越え、自分らしい未来を築くにはどうすれば良いのでしょうか？先の読めない時代を力強く生き抜くための鍵、それは「手に職」、すなわち「技能を磨く」ことです。

好評いただいた創刊号に続き、今回の「マイスター通信」では、紹介できていない福井の職業系高校の挑戦や、専門分野で輝く卒業生たちの活躍をさらに深く掘り下げます！

プロフェッショナルな人材を育成する「プロ人材高校(マイスター・ハイスクール)」の魅力と可能性を、第2号でもたっぷりお届けします！ご期待ください！



【職業系の学科をこのマークで表します】



【福井県の県立高校】

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/koukou/sixyoukai.html>

表中の○や青字の設置学科名をクリックして、各学校の教育活動などをご覧ください。





商 奥越明成発! 地域を元気に

地元地域を発信するため、ロゴをデザインし、トートバッグや地域PR冊子を作成しました。情報発信への意識や、地元の振興と活性化に寄与する態度を養っています。取材活動や編集作業を通して、思考力、協調性、コミュニケーション能力などを磨いています!



工 地域課題を解決します!

地域からの依頼を受け、獣害対策としてアライグマ捕獲用檻の製作に協力しました。班メンバーと協働し、市販品にはない独自の工夫を凝らした檻を製作しました。この中で、生徒たちは自発性や創造性、課題解決能力を養いました!



地元で活躍する先輩の声

頼られる喜びが成長に!

奥越明成高等学校
生活福祉科 生活コース 平成30年度卒
酒井 美羽 さん (上庄中学校出身)
さかい みう

家



就職先
(福) いとよみらい
いとよミライエこども園

私は奥越明成高校の生活コースで基礎的な保育を学び、保育士になりたい思いが強くなりました。保育の他にも多くのことを学びました。栄養や調理法は3年間を通して学び、今では保護者からの離乳食の相談や、「苦手なものを食べてくれない」といった悩みに、学んだことを生かして対応しています。

また、被服検定や、ドレス作りの経験も役に立ち、発表会の衣装づくりを任せられました。同僚に頼られ、褒められましたことは今でも忘れられません。高校時代の幅広い学習や経験が、今の保育士の仕事に役立っていて本当に良かったです。

3年間で、プロの介護士へ

奥越明成高等学校
生活福祉科 福祉コース 平成29年度卒
櫻田 拓実 さん (陽明中学校出身)
さくらだ たくみ

福



就職先
(特養) 大野和光園

私は高校三年間で介護福祉士の国家資格が取得できることに魅力を感じ、福祉コースに入学しました。当時は福祉に関する知識も全く無かったですが、座学だけでなく校内実習・施設実習があり、日々の学習が楽しかったことを覚えています。施設実習では、直接利用者様と関わり、施設の方の指導を受けることで、学校だけでは得られない一人ひとりに合わせた介助方法やコミュニケーションの取り方等を学ぶことができ、介護福祉士となった現在も活かしています。



商 マーケティング分析を学ぶ!

自治体・商工会議所の方々と共に地域の課題や現状を把握し、商品開発提案や販売まで行う協働のプロジェクトに取り組んでいます。

協働を通じてより良いものを生み出すための対話術や創造性を磨いています!

商 SDGs 商品「イノルラ」の開発

校内回収ペットボトルキャップで定規「イノルラ(福井市ふるさと納税返礼品)」を開発をしました。

商品開発の苦勞と喜び、SDGs貢献を実感しながら、普及活動中です。

地元で活躍する先輩の声

医療を支える、商業のチカラ

福井商業高等学校
流通経済科 平成30年度卒
山口 珠生 さん(足羽中学校出身)
やまぐち たまき

商



就職先
(株)ミタス

私は、福井商業高校の流通経済科を卒業しました。高校は、商業専門高校であるので、主に簿記やコンピュータなどを学習し、特に、流通経済科の主科目の、マーケティングの学習に熱心に取り組みました。このマーケティングの授業では、企業の経営的な内容について詳しく学習することができました。

現在は、医療機器メーカーの企業で事務職の仕事に就いております。日々、電話の応対や商品の発注業務は大変ですが、高校時に学んだことを十分に活かし業務に取り組んでおります。これからも、福井県の医療に貢献できる人材となり、がんばって行きたいと思っております。

培ったスキルで地域に貢献!

福井商業高等学校
商業科 令和3年度卒
齋藤 圭 さん(清水中学校出身)
さいとう けい

商



就職先
日本郵便(株)
(清水郵便局)

私は、福井商業高校の商業科を卒業しました。高校時は、商業科Aコースに所属し、商業科目の資格を取得する学習に取り組み、数多くの検定試験に合格することができました。

卒業後は日本郵便株式会社に就職し、現在、清水郵便局に勤務し、高校時に学んだ、簿記の知識や、パソコン実習のスキルや電話の応対など、商業に関する学びを、現在の業務に十分に活かし取り組んでおります。

これからも、地域の皆様のために、大いに貢献できる郵便局員としてがんばって行きたいと思っております。



Ⅰ DX技術で地域貢献!



地域の小学校に設置する、新聞閲覧台を製作し寄贈する取組を行っています。

3D CADによる設計や3Dプリンターを活用した治具の作成、地域キャラクターをデジタル化してレーザー加工機で刻印するなど、授業で学ぶIT化技術を活かしながら地域貢献活動のDX化を推進しています。

Ⅱ 出前授業で地域貢献!



化学のすばらしさを伝えるため、地元の保育園で「巨大シャボン玉」や「のびるスライム」についての出前授業を行いました。

生徒たちは、園との打ち合わせや当日の園児たちへ関わりを通して、伝え方やコミュニケーション力など、多くのことを学んでいました。

地元で活躍する先輩の声

デザイン×写真、好きが広がる!

科学技術高等学校
テキスタイルデザイン科(現 産業デザイン科) 平成13年度卒
小林 智映 さん(池田中学校出身) Ⅰ
こばやし ともえ



龍宮スタジオ

一番楽しかった私の青春! 子供のころから好きだと感じたデザインを学びたくて自宅から往復60キロのデザイン科に入学。自分が好きなことにこんなに時間を使っていたなんてとても嬉しかったです。印刷会社に就職し、チラシやポスターなどグラフィックデザインのお仕事で、高校で学んだグラフィックソフトのイラストレーターやフォトショップがとても役立ちました。

好きな方から夢中になれる方へ、人から求められる方へと矢印を向けて進み、たどり着いたのがカメラマンでした。現在は林業事務をしながら副業でデザインや写真のお仕事をしています。起業の際は印刷会社での経験や知識が役に立ちました。

電気理論が仕事の支えに

科学技術高等学校
電子電気科 令和3年度卒
松川 弥怜 さん(足羽第一中学校出身) Ⅰ
まつかわ みれ

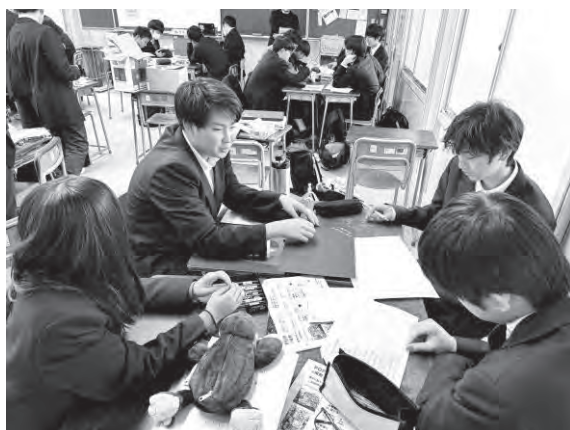


就職先
北陸電力(株)

電子電気科では、電気の基礎知識を学び、実習を通して知識を知恵に変えることが出来ました。

電力会社に入社し、配電部門に配属となって新入社員教育を受講した際には、電力会社が各家庭、工場等に電気を供給する仕組みを理解していく上で、高校時代に学んだ電気理論の知識が非常に役立ちました。

また、学校での資格取得に向けた勉強を通して、最後まで物事をやり抜く力を身に付けることが出来たと感じています。この経験が配電作業をする際、当初わからなかった作業のコツや動作について身に付けることが出来るまで粘り強く調べたり聞いたりする、諦めない姿勢に繋がっていると実感しています。



農 ブランディングの基礎を学ぶ

生物生産科ではオリジナルトマト「の〜りんのあま姫」等の販売促進の方法を授業を通して学んでいます。プロの講師からPOP作成指導を受け、キャッチコピーや写真技術を習得。ブランディングや店舗魅力向上、差別化の重要性も学んでいます！



農 福農育ちの米麴味噌！

福井農林高校で栽培している大豆（「里のほほえみ」）を使用し、甘味と旨味を凝縮させた米麴味噌の製造を行っています。この味噌は、校内の販売実習の場「ふれあいマート」にて販売をしています。

生産から製造、販売までを実践できるのは、本校の魅力の一つです！

地元で活躍する先輩の声

先端栽培技術の開発！

福井農林高等学校
生物生産科 令和4年度卒
河野 竜也 さん（社中学校出身）
このの たつや

農



就職先
福井県農業試験場
（福井県職員農学Ⅱ種）

私が生物生産科で学んだことは、主に野菜や草花、作物の栽培についてです。草花や野菜がどのようにして育つか、植物に必須な肥料の3要素や肥料の種類に書いてある数字の意味、土の性質や植物に適した土の作り方などを学びました。

学校で学んだ知識や技術は、水稻や麦の栽培の時に役に立っています。現場で水田に撒く肥料や苗を植え付ける際に、一緒に撒く肥料にはどのような要素が入っているのかを考えると役に立っています。また、水田ごとに肥料の量が異なるため計算する際にも役に立っています。

福井の山を守る、林業の力

福井農林高等学校
環境工学科 令和3年度卒
辻岡 雄大 さん（松岡中学校出身）
つじおか ゆうだい

農



就職先
奥越農林総合事務所
（福井県職員林学Ⅱ種）

私は、環境工学科に在籍する3年間の中で、特に林業についての学習を頑張ってきました。高校2年生次に林業について学ぶことを選択し、「森林計画・経営」「林業」についての基本的な知識の習得、実際の林業機械を使用するの演習体験など多くの林業知識を学ぶことが出来ました。

高校卒業後は、福井県職員となり林学職として福井県の森林を守る仕事をしており、今は山の中に入れるダム工事の設計・監督業務を主に務めています。土木的な仕事ではありませんが、高校の授業で土木の知識も学んでいたもので、現場で測量をする場面がありますが知識を発揮し躍動的に動いています。また、勉強面以外でも学校生活で培ってきた「仲間と協力して何かをやり遂げる」という場面が多々あるので大切に নিয়ে改めて実感することができました。



商 販売実習でスキルを磨く

敦賀のお土産となるクッキーや、パンを開発し学校祭や地元商店街、地域交流施設等で販売を行っています。

販売促進が及ぼす効果について検証し、地域の方との交流や、対話をしながら販売することで、学びを深めています！



商 敦賀真鯛ラーメンを開発

敦賀市内のラーメン店と共同で、「敦賀真鯛ラーメン」セットを開発しました。この商品は、地域イベントで販売するだけでなく、交流のある静岡県の高校のイベントでも販売を行いました。

仲間たちと力を合わせて販売を行ったことは、貴重な経験になっています！

地元で活躍する先輩の声

学びを武器に、顧客に提案

敦賀高等学校
情報経理科 平成25年度卒
山本 弘樹 さん（松陵中学校出身）
やまもと ひろき

商



就職先
(株)原子力発電訓練センター

高校時代は商品開発やマーケティング等、専門性の高い授業があり、地元業者とのコラボ商品の開発や、地元敦賀の観光ツアーの立案・開催を通して社会や地域経済に触れることができました。

高校卒業後は、地元敦賀にある株式会社原子力発電訓練センターに入社し、入社後3年間は経理業務を担当し、4年目からは設備投資、設備管理を担当しております。

職場環境の改善や顧客満足度の向上を目的とした設備投資を立案する際は、高校時代に商品開発・マーケティングの授業で学習したニーズの把握や費用対効果の知識や考え方が活かしています。

海と商、敦高で繋ぐ

敦賀高等学校
商業科 平成25年度卒
古川 徹 さん（西浦中学校出身）
ふるかわ とおる

商



就職先
伊呂波旅館

私は敦賀高校商業科から、福井県立大学経済学部経営学科に進学しました。大学在学中には、ワーキングホリデーでオーストラリアにも行き、楽しみながら学ぶことができました。実家が民宿の自営業を営んでいることもあり、特に経営学についての知識を深める4年間でした。

今は、地元の西浦で船の船長として働いています。家業を継ぐ形となり、海と魚と船に囲まれる日々でとても充実しています。高校時代に学んだマーケティングに関する知識、収支を計算する際には簿記の技術が役立っています。

かけがえのない3年間でぜひ敦賀高校商業科で！



Ⅰ 各種コンテスト・検定に挑戦！

敦賀工業高校では、各種コンテストや技能検定に積極的に取り組んでいます。所属する学科で学んだ専門知識と、磨き上げた技術力で、ロボット・マイコン作製、電子回路組立、旋盤作業、化学分析、測量など、様々なことに挑戦しています！



Ⅱ 寄贈ベンチの製作

地域施設内の敷地造成のため伐採された早生樹(センダン)を活用し、県内筆筒店の店主より技術指導を受けながら、2種類のベンチを計4脚作製しました。

吸い付き桟を接合部に使用したベンチは美浜町に寄贈し、地元のために活用いただいています。

地元で活躍する先輩の声

建築の知識で未来を創る

敦賀工業高等学校
建築システム科 令和3年度卒
小畑 勇海 さん (粟野中学校出身)
おばた いさみ



就職先
敦賀協栄建築(株)

私は出身学科で現場管理についての知識、JW-CADの基本的な操作、測量の仕方等を学びました。どれも仕事で役に立つ知識で、特に在学時に取得した2級建築施工管理技士補の学科の勉強は仕事面、新たな資格取得面でも生かすことができたので、頑張っておいて良かったです。

現在、現場監督として現場に関わっていますが、新しい発見だらけです。しかし、在学中に学んだ事もたくさん出てきます。現場では、自分の目を見て、初めて理解する事もあり、知識を自分の物にしていくのが楽しいです。高校生活は今しかないので、全力で楽しみながら勉強を頑張ってください。

敦賀工業発、IT業界で活躍中！

敦賀工業高等学校
情報ケミカル科 令和4年度卒
田中 泰地 さん (小浜第二中学校出身)
たなか たいち



就職先
パナソニック
オートモーティブシステムズ(株)

私は敦賀工業高校の課題研究で「AIを利用した文字認識ソフトウェアの開発」に取り組みました。この取り組みでは、課題特定からソフトウェアを用いた解決策の立案、開発を行い、課題解決のための論理的な思考力や分析力が身につきました。また、授業で学んだ基礎知識をどう応用するかを考え、試行錯誤する力も培われたと感じています。

現在、私は、情報システム職として仕事をしています。ネットワーク障害などに悩まされることもあります。課題研究で培った力を活かし、原因を明確にすることで、適切な対処につながっています。



家 一日カフェで腕を振るう！

食物科では、飲食業の厨房施設をお借りして飲食店の運営について学ぶ、一日カフェ実習を行っています。

メニュー考案からチケット販売、原価計算、料理の提供まですべて自分たちで行っています。



家 SDGsドレスコレクションに挑戦！

生活情報科は、廃棄ウェディングドレスをリメイクし、SDGsをテーマとしたドレスコレクション・リメイクファッションショーに参加しました。

3週間の短い製作期間で、日頃の学びを活かし、チーム一丸となってショーを成功させました！

地元で活躍する先輩の声

ドレスと私、最高の出会い

美方高等学校
生活情報科 令和4年度卒
武藤 凜 さん（三方中学校出身）
むとう りん

家

就職先
アルファブランカ



小さい頃からドレスや洋服に興味があり、洋服を作ることが出来る生活情報科に入学しました。現在勤務しているアルファブランカには、授業での工場見学を通してご縁があり、卒業後も桂由美先生とお会いでき貴重な体験が出来ました。

仕事上では、高校で学んだ文書作成やマナーの授業が役に立っています。毎日素敵なドレスに触れ、お客様にはドレスを着る喜びを知っていただける幸せな職業に出会えて幸栄に思います。

食物科でプロの扉を開く

美方高等学校
食物科 令和3年度卒
田代 志歩 さん（松陵中学校出身）
たしろ しほ

家



就職先
(株)グランディア芳泉

美方高校食物科では和洋中の料理の基礎を学びます。卒業後でも役に立つ、包丁使いや盛り付け方など、沢山のことを学び、身につけることができます。また、調理師免許も取得でき、創作料理やいろいろな調理技術に挑戦することができたので、今の会社に貢献することができています。

最初は、要領の悪い私が、調理師になれるのだろうかかと不安でしたが、先輩や先生方にたくさんのアドバイスをいただいたおかげで、出来なかったことが段々とできるようになっていきました。

工 アイガモロボットの製作



電気・機械科の枠を超え、アイガモ農法自動化を目指し、水田の雑草抑制ロボットを製作。工作機械で本体を作り、配線やプログラミングも自力で行う課題研究に挑戦しています！

専門性を活かしたものづくりを行うなど、協働的な探究活動を展開しています！

農 若狭東高「チルフェス」の開催



子ども向け食育イベント「チルフェス」を実施。校内で収穫した野菜を使用した「夏野菜カレー」や「冷やし中華」をイベントに参加した子どもたちに提供しました。電子機械コースの「ミニ新幹線」や吹奏楽部による演奏など、他学科や部活動と連携してイベントを盛り上げました！

地元で活躍する先輩の声

農業の道、挑戦は続く！

若狭東高等学校
産業技術科 生産コース 平成24年度卒
(現 地域創造科 食農創造コース)
吉田 成志 さん (名田庄中学校出身)
よしだ なるし

農



就職先
(同)ファーム・スリー・ユー

私は高校生の頃に、農業の基礎的な知識と技術を幅広く学ぶことができました。また、専門教科や農業クラブ全国大会農業鑑定競技会の学習から学びを深めたことから、将来につなげたいという思いが強くなり、東京農業大学農学部への進学を決めました。大学では作物を専攻し、多品目をあつかう現在の職場でも活かすことができます。

学生みなさんへ、興味のあることは自ら調べ学びを深めていくことや、広い視野をもって何事にも取り組んでいくことで未来はひらけます。がんばって下さい。

言葉の力で町民とつながる！

若狭東高等学校
ビジネス情報科 情報コース 令和3年度卒
青木 ひな さん (大飯中学校出身)
あおき ひな

商



就職先
おい町役場

私は、ビジネス情報科情報コースで、コミュニケーションを円滑に行うための能力を学びました。入学当初は、思い通りに人と話すことができませんでした。しかし、コミュニケーションについて学んだ際に自分には相手の立場に寄り添う、共感性が不足していると気づきました。これらの事を意識して生活していくことで思い通りのコミュニケーションが取れるようになりました。

現在の仕事では、町民の皆様と直接関わる業務をしています。今後も、常に意識することを忘れず仕事に取り組みたいです。

プロ人材高校へアクセス！



2次元コードをクリックすると各高校のHPをご覧ください！



坂井高等学校

農 工 商 家



福井商業高等学校

商



科学技術高等学校

工



福井農林高等学校

農



武生商工高等学校

工 商



奥越明成高等学校

工 商 家 福



敦賀高等学校

商 普



敦賀工業高等学校

工



若狭高等学校

水 普



美方高等学校

家 普



農

農業

工

工業

商

商業

水

水産

家

家庭

福

福祉

普

普通



若狭東高等学校

農 工 商



令和6年度 ふくい産業教育フェア

1. 事業内容

職業系学科等で学ぶ内容や研究の成果を発表する機会を設け、生徒の意欲を向上させるとともに、県民に対して職業学科の魅力を広くPRすることを目的とする。

2. 会 場

ハピリン 福井市中央1丁目2番1号

3. 開催日時

令和7年2月11日(火・祝)13:00～16:00

3. 参加人数

200人超 参加申し込みのあった生徒および先生

4. 参加校

県立職業系高校11校、特別支援学校1校、私立4校

〔 敦賀、美方、若狭、若狭東、福井農林、坂井、科学技術、
奥越明成、武生商工、敦賀工業、福井商業、嶺南西特支、
北陸、啓新、福井工業大学附属福井、福井南 〕

5. 開催内容

【ハピリン3F】ハピリンホール

- ・開会式 藤丸教育長あいさつ
- ・表彰式 藤丸教育長授与 フューチャーマイスタートップ賞 11人
PRポスター最優秀賞 2人
- ・教育長と表彰者による記念撮影
- ・ステージ発表 8校
- ・講評 福井大学 教授 大久保貢氏
- ・閉会式 松下学校教育監あいさつ

【ハピリン2F】しあわせ広場

- ・文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業展示
… 1ブース(高校教育課、拠点校 坂井・武生商工)
- ・展示およびポスター発表 … 25ブース(県内すべての職業系学科、特支校)
※特支校は展示のみ

6. 新たな取り組み

- ・すべての職業系の専門学科による一斉パネル発表を実施
- ・集客が見込まれる福井駅前「ハピリン」にて開催
- ・私立高校、特別支援学校が参加

【参考】

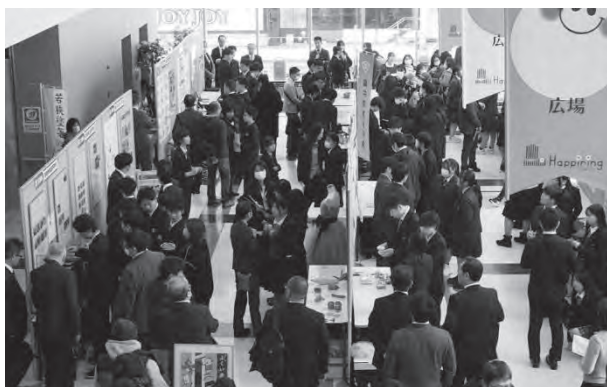
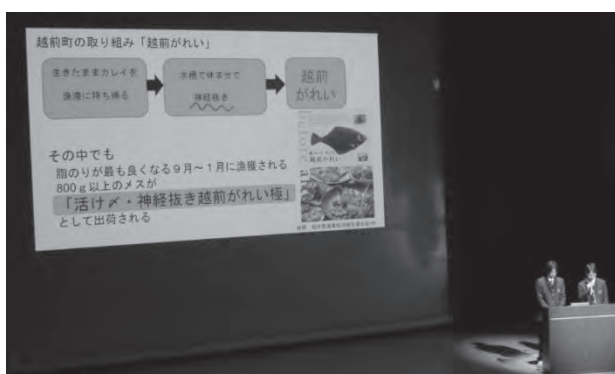
・フューチャーマイスタートップ賞 11人

農業科(福井農林1人)、工業科(敦賀工業1人、奥越明成1人)、
商業科(福井商業2人)、水産科(若狭1人)、家庭科(奥越明成1人)、
福祉科(奥越明成2人)、看護科(福井1人)、総合学科(福井南1人)

・PRポスター最優秀賞 2人(武生商工 商業科)

・ステージ発表 8校

水産科(若狭)、工業科(坂井)、看護科(福井)、家庭科(奥越明成)、
福祉科(奥越明成)、農業科(福井農林)、商業科(武生商工)、総合学科(福井南)



ふくい産業教育フェア



令和7年 2月11日 火・祝 13:00~16:00

会場 **ハピリン** 福井市中央1丁目2番1号

日程 **3階 ハピリンホール(多目的ホール)**
 13:00 表彰式 13:30 ステージ発表
2階 しあわせ広場
 13:00 作品展示
 15:00

ポスター発表1回目 13:30~14:00
 ポスター発表2回目 14:30~15:00

主催 **福井県教育委員会**

ポスター原画／武生商工高校 情報ビジネス科 3年 赤澤采羽、木下結愛、呉屋天月、小泉惺愛

ステージ発表

13時30分～15時20分 3階 ハピリンホール(多目的ホール)

前半 13時30分～14時20分

水産

13時30分～13時42分

テーマ 越前がれいを使用した 3Dフードプリンタでの宇宙食の開発

若狭高等学校 海洋科学科

2年 中井 颯 大 (小浜中学校出身)、松吉 琥 宇 (小浜中学校出身)

越前がれいを使用した宇宙食を開発することで利用価値向上と地域の活性化に繋げようと考えた。現状を把握するためのインタビュー調査と試作を行った。今後は宇宙食と3Dフードプリンタの研究を進めていきたい。



工業

13時42分～13時54分

テーマ 坂井高校VRプロジェクト ～メタバース上でオープンスクール～

坂井高等学校 電気・情報システム科情報システムコース

3年 板岡 璃 一 (三国中学校出身)、齊藤 陸 (金津中学校出身)、
糠山 征 那 (金津中学校出身)、山田 晃 己 (金津中学校出身)

今回私たちはメタバースを利用したオープンスクール会場の制作に挑戦しました。これから高校選びを考える中学生に向けて、興味を持ってもらえるようなミニゲームなどをVR体験できるコンテンツができあがりました。



看護

13時54分～14時06分

テーマ 衛生看護科ってどんなことをしているの？

福井工業大学附属福井高等学校 衛生看護科

3年 中嶋 彩 花 (丸岡南中学校出身)、轡田 泰 河 (足羽中学校出身)、
竹内美紗喜 (三国中学校出身)、仲倉 は な (武生第二中学校出身)

衛生看護科3年間で学んできた教科や臨地実習、学内演習について紹介し、その後、学んできたことを踏まえ、生活習慣病についての健康教室を行います。



家庭

14時06分～14時18分

テーマ 個人研究「里芋×世界の料理」と地域の取り組み

奥越明成高等学校 生活福祉科生活コース

3年 猪野 歩 美 (開成中学校出身)、幅田 桜 徠 (勝山中部中学校出身)

個人研究では地元の特産品である上庄里芋と世界の料理を組み合わせた新しい食べ方について研究しました。また、それぞれが研究したレシピで地域企業と連携した生活コース全体の取り組みについても発表します。



休憩時間 14時20分～14時30分

後半 14時30分～15時20分

福祉

14時30分～14時42分

テーマ

高校生介護技術コンテスト全国大会出場を終えて

奥越明成高等学校 生活福祉科福祉コース

3年 北野 琉唯 (気比中学校出身)、土橋 萌愛 (陽明中学校出身)、
出作 琉奈 (開成中学校出身)

北信越地区予選大会を突破し、全国高校生介護技術コンテストに初めて出場しました。その経験から、「介護」について改めて考えることができました。私たちが学んだこと、感じたことを発表します。



農業

14時42分～14時54分

テーマ

福井に新たなブランドトマトを！～新しいトマトに出会えます～

福井農林高等学校 生物生産科

3年 風無 美空 (光陽中学校出身)、郡 麻衣 (勝山北部中学校出身)、
山下 好誠 (足羽第一中学校出身)、八百山 優 (丸岡中学校出身)、
竹内 一仁 (明倫中学校出身)

福井の新しいブランドを作りたいと考え、大玉トマトの高品質化の栽培研究をし、今年度は企業や大学と連携して、コスト削減とさらなる品質向上を目指した。



商業

14時54分～15時06分

テーマ

なつめ地区魅力発信プロジェクト

武生商工高等学校

商業マネジメント科

3年 上野 楓華 (武生第一中学校出身)、漆崎 未来 (丸岡南中学校出身)、
川崎 仁梨 (鯖江中学校出身)、伊藤 和紗 (万葉中学校出身)

情報ビジネス科

3年 牧田 莉央 (朝日中学校出身)、見延 あんず (南越中学校出身)

福井市粟中学校1年生と協働で、「なつめ地区魅力発信プロジェクト」を立ち上げ、地区の農産物を取り入れたレシピを開発し、なつめカフェで調理、接客、販売を行いました。



総合

15時06分～15時18分

テーマ

福井南高校の地域交流

福井南高等学校 総合学科

3年 稲津 陽菜 (勝山中部中学校出身)、杉山 美葵 (武生第二中学校出身)

福井市文殊地区にある本校は、探究活動や部活動を中心に地域との交流を積極的に行っている。

今回は今年度の具体的な交流と、今後も地域交流が継続できるように後輩たちに伝えたいことを発表する。



作品展示、ポスター発表

13時00分～15時00分 2階 しあわせ広場

作品展示：13時00分～15時00分

ポスター発表：1回目 13時30分～14時00分

2回目 14時30分～15時00分

工業
高科学
技校術

工業
高武生
商校工

工業
高敦賀
工校業

農業
高福井
農校林

農業
坂井高
校

農業
若狭東
高校

水産
若狭高
校

看護
福井工
業大学
附属

総合
福井南
高校

商業
高福井
商校業

商業
高武生
商校工

商業
敦賀高
校

工業
坂井高
校

工業
若狭東
高校

工業
高奥越
明校成

家庭
坂井高
校

家庭
高奥越
明校成

福祉
高奥越
明校成

家庭
啓新高
校

家庭
美方高
校

商業
高奥越
明校成

商業
北陸高
校

商業
坂井高
校

商業
若狭東
高校

嶺南西特別
支援学校

マイスター・ハイスクール
普及促進事業

2階エスカレーター前

会場 出入口

事業運営委員会の記録

1. 事業運営委員・役割

氏名	所属・職	役割
大久保 貢	福井大学 基盤部門 地域創生推進本部 教授	・産業人材育成に係る助言等の支援 ・高校の課題研究等と関係学部との連携支援
北島 啓嗣	福井県立大学 副学長(地域連携)	
藤川 博史	福井県商工会議所連合会 事務局長	・産業界の課題をふまえ、連携について助言 ・県内各地域の産業界、企業等との橋渡しの支援
加藤 剛	福井県商工会連合会 経営支援課・高度支援課 課長	
堀井 真理生	福井県中小企業団体中央会 連携支援課 課長代理	
小野田 謙一	福井県産業労働部 労働政策課 副部長(労働政策)	・教育界と産業界の橋渡しについて助言等の支援
山本 寛	福井県教育庁 高校教育課 副部長(高校教育)	・事業全体の総括
事業運営委員会が本事業において果たす役割 ・事業の目的や目標を明確化し、具体的な事業計画を策定する。 ・事業に向けて連携体制を強化し、各関係機関の役割分担を明確化する。 ・事業の進捗状況を評価し、必要に応じて助言を含む支援する。 ・事業の運営に関するすべての意思決定を行う。 ・拠点校推進委員会と課題等を共有し、解決策の立案など、活動全般を支援する。 ・拠点校だけでなく、域内すべての専門高校と各分野の産業界等との懸け橋となるように支援し、地域の産業界と専門高校のお互いの要望をより具現化する。		

2. 事業運営委員会における実績

・第1回事業運営委員会（令和6年6月21日（金） 於：坂井高等学校） ・第2回事業運営委員会（令和6年7月 9日（火） 於：武生商工高等学校） ・第3回事業運営委員会（令和7年3月13日（木） 於：福井県庁）
--

3. 会議の記録

【第1回】

(1)日時 令和6年6月21日(金) 14:45～15:45

(2)場所 福井県立坂井高等学校

(3)出席者

事業運営委員	大久保 貢	福井大学 基盤部門 地域創生推進本部 教授
事業運営委員	北島 啓嗣	福井県立大学 副学長（地域連携）
事業運営委員（代理）	春日野 道治	福井県商工会議所連合会 総合企画部 部長
事業運営委員	加藤 剛	福井県商工会連合会 総合支援センター 所長
事業運営委員	堀井 真理生	福井県中小企業団体中央会 連携支援課 課長代理
事業運営委員（代理）	瓜生 陽司	福井県産業労働部労働政策課 課長補佐
事業運営委員	山本 寛	福井県教育庁 高校教育課 副部長（高校教育）
拠点校推進委員	長谷川 正広	坂井市役所 総合政策部次長兼企画政策課長
拠点校推進委員	清水 一広	坂井高等学校 校長
拠点校推進委員	渡邊 本樹	坂井高等学校 教頭
拠点校推進委員	南 良一	坂井高等学校 教諭
拠点校推進委員	小川 靖子	坂井高等学校 教諭（事務局）
見学	大正 公丹子	武生商工高校 校長
見学	山崎 泰代	武生商工高校 教頭
見学	牧野 泰英	武生商工高校 商業科 主任
見学	中川 和彦	武生商工高校 商業科 教諭
見学	金光 日穂里	武生商工高校 商業科 教諭
見学	藤枝 徹	武生商工高校 機械創造科主任
見学	荒川 真臣	武生商工高校 電気情報科主任
見学	三田村 昌和	武生商工高校 都市・建築科主任
見学	中井 慶子	奥越明成高校 英語科
見学	進士 禎政	科学技術高等学校 電子電気科主任
見学	辻 博文	福井商業高校 商業科主任
見学	濱本 誠一	敦賀工業高校 教務主任
見学	河村 雄希	敦賀工業高校 学習支援部探究係
見学	田原 康治	福井農林高校

(4)内 容

- ・開会のあいさつ(事業実施機関代表)
- ・事業運営委員及び拠点校進委員の紹介
- ・事業方針、内容および年間計画等の説明
- ・坂井高校(拠点校)について
- ・意見交換
- ・閉会のあいさつ(拠点校代表)



MH 事業の説明



授業・設備の参観

【第2回】

(1)日時 令和6年7月9日(火) 13:30～15:30

(2)場所 福井県立武生商工高等学校

(3)出席者

事業運営委員	大久保 貢	福井大学 基盤部門 地域創生推進本部 教授
事業運営委員 (オンライン)	北島 啓嗣	福井県立大学 副学長(地域連携)
事業運営委員	藤川 博史	福井県商工会議所連合会 事務局長
事業運営委員	加藤 剛	福井県商工会連合会 総合支援センター 所長
事業運営委員	堀井 真理生	福井県中小企業団体中央会 連携支援課 課長代理
事業運営委員	小野田 謙一	福井県産業労働部 労働政策課 副部長(労働政策)
事業運営委員	山本 寛	福井県教育庁 高校教育課 副部長(高校教育)
拠点校推進委員	北村 泰生	NP0 法人 今庄旅籠塾 事務局長
拠点校推進委員	波多野 翼	NP0 法人 丹南市民自治研究センター 理事
拠点校推進委員	大正 公丹子	武生商工高等学校 校長
拠点校推進委員	島田 克久	武生商工高等学校 教頭(工業C)
拠点校推進委員	山崎 泰代	武生商工高等学校 教頭(商業C)
拠点校推進委員	牧野 泰英	武生商工高等学校 教諭(商業)
拠点校推進委員	福岡 寛典	武生商工高等学校 教諭(商業)
拠点校推進委員	中川 和彦	武生商工高等学校 教諭(商業)
拠点校推進委員	金光 日穂里	武生商工高等学校 教諭(商業)(事務局)
拠点校推進委員	藤枝 徹	武生商工高等学校 教諭(機械)
拠点校推進委員	木村 和裕	武生商工高等学校 教諭(工業化学)
拠点校推進委員	荒川 真臣	武生商工高等学校 教諭(電気情報)
拠点校推進委員	三田村 昌和	武生商工高等学校 教諭(都市工学)
拠点校推進委員	廣田 喜文	武生商工高等学校 教諭(建築)
見学	加藤 龍一	科学技術高校 校長
見学 (オンライン)	渡邊 本樹	坂井高校 教頭
見学	吉長 珠輝	敦賀高校・商業科主任
見学	畠中 快成	敦賀高校・商業科教諭
見学	宮内 文範	敦賀工業高校 情報ケミカル科 教諭

(4)内 容

- ・開会のあいさつ(事業実施機関代表)
- ・事業運営委員及び拠点校進委員の紹介
- ・事業方針、内容および年間計画等の確認
- ・武生商工高校(拠点校)について(学校概要・進路先・特徴的な取り組み等)
- ・生徒発表(5グループ)(質疑応答含む)
- ・育成したい資質能力と今後の具体的取り組みについて(意見交換を含む)
- ・閉会のあいさつ(拠点校代表)



意見交換



生徒による取組発表

【第3回】

(1)日時 令和7年3月13日(木) 14:00～16:00

(2)場所 福井県庁 教育委員会室

(3)出席者

事業運営委員	大久保 貢	福井大学 基盤部門 地域創生推進本部 教授
事業運営委員(代理)	吉田 美佳	福井県立大学 地域政策学部開設準備室 室長補佐
事業運営委員	藤川 博史	福井県商工会議所連合会 事務局長
事業運営委員	加藤 剛	福井県商工会連合会 総合支援センター 所長
事業運営委員	堀井 真理生	福井県中小企業団体中央会 連携支援課 課長代理
事業運営委員	小野田 謙一	福井県産業労働部 労働政策課 副部長(労働政策)
事業運営委員	山本 寛	福井県教育庁 高校教育課 副部長(高校教育)
拠点校推進委員	小川 靖子	坂井高等学校 教諭 (事務局)
拠点校推進委員	金光 日穂里	武生商工高等学校 教諭(商業C)(事務局)
拠点校推進委員	三田村 昌和	武生商工高等学校 教諭(工業C)(事務局)

(4)内容

- ・開会のあいさつ(事業実施機関代表)
- ・マイスター・ハイスクール普及促進事業について(事務局)
- ・今年度の取組みと次年度の計画について
 - ①坂井高校 ②武生商工高校 ③福井県



(5)委員からの意見

坂井高校の取組みについて

○大久保委員

坂井高校の先生方の尽力により、文科省の取組みで成果が出ていることは素晴らしい。しかし、評価指標の一つである中学校からの志願者数が8コース中7コースで定員割れしており、早急なPR戦略が必要である。特に、「坂井高校は素晴らしく、国公立大学に行ける」という良いイメージを中学生や保護者に持ってもらうことが重要である。文科省事業と大学進学率の維持・向上を両立させるため、これまでの企業見学に加え、大学見学を増やすべきである。また、福井大学の国際地域学部をはじめ、探究学習の成果を評価する大学入試が増加しているため、その視点を取り入れた取組みも重要である。このまま志願者が減少すると学校存続の危機に繋がるため、効果的な対策が求められる。

○吉田委員代理

坂井高校の取組みは1年生からの積み重ねが素晴らしい。大久保先生の言うように、一般の方、中学生・小学生の保護者など多くの人にその内容を知ってもらうべきである。県立大学も多様な入試方法を取り入れており、先生方が重視する学びに向かう指標への取組みからも高校側の熱意が感じられる。地域課題への取組みは普通科高校よりも深く、生徒の自走に期待したい。

○藤川委員

坂井高校の4年間の取組みは完成度が高く、地元企業との連携も素晴らしい。コース別の企業訪問は良いが、生徒の興味に基づき訪問先を選べるようにすることで、多様な視点を得る機会を増やすことも検討できる。

<質問>

グローバル研修の視察先が何に結びつくのか。学びに向かう7つの指標が良いと感じている。最近では受け身の方が増えているため、時代の変化が激しい中、自分で意思決定ができる人が求められている。是非この指標に力を入れていただけるとありがたい。

<回答>小川教諭

企業訪問先の決定はコース長との相談によるが、生徒の感想には「他の企業も見たい」という意見があり、選び方には改善の余地がある。地方に工場がない大企業にも目を向け、電気コースであればグローバル研修で授業内容と関連した体験ができる企業を選ぶなど、より効果的な学習機会の提供が望ましい。

○加藤委員

保護者の立場からすると、坂井高校の魅力的な取り組みは十分に知られていないと感じる。中学校や小学校との連携を強化し、大学進学の実績や「7つの矜持」を育む教育などを積極的にPRすることで、進学希望者の増加に繋がる可能性がある。保護者の意向は高校選択に大きく影響するため、中学生への情報提供も重要である。自走に向けた予算や事業の持続可能性は課題であり、継続のための方策を検討する必要がある。坂井高校の学びの方向性や「7つの矜持」は、社員教育や人材確保に課題を抱える企業にとっても参考になる可能性がある。

○堀井委員

今年度からマイスター・ハイスクール事業に関わる者です。昨年初めて坂井高校を見学し、大変感銘を受けました。生まれ変わったら普通科ではなく専門高校に進学したいと思えるほど魅力的な場所であり、今の生徒が羨ましいと感じています。評価指標として大学進学だけでなく、18歳でしっかりとした基盤を築き社会に出るという選択も非常に有意義です。大学に長くいることが必ずしも良いとは限らず、若い頃から自主性を持って育ち社会で活躍することは地域産業にとっても素晴らしいことです。進路選択や価値観の多様性の観点からも、18歳で社会に出ることを否定的に捉えるべきではありません。このような素晴らしい取り組みが長く続くことを願っています。

<質問>

仕事・業務の平準化はただでさえ忙しい教育現場でどのように実現するのか。今の段階で何か方策があれば教えていただきたい。また、普通科高校を交えてという文言を確認したが、普通科高校がどのように絡んでいくのか、現段階で例があれば教えていただきたい。

<回答>小川教諭

小中高との連携や専門高校（武生商工）との連携は実現しました。普通科高校が実施している探究活動に、本校の生徒も参加させていただくといった連携も可能ではないかと考えています。普通科高校の先生方と意見交換をする機会があれば、ぜひこの提案をしたい。

○小野田委員

坂井高校の取り組みは令和3年から成熟しており素晴らしいが、地元や一般への認知度、外部からの見え方に課題がある。情報発信の方法はさておき、広く知らせる機会を作る必要がある。平準化は参加者の意欲次第であり、仲間を増やすことが有効な手段となる。プログラムに参加した企業からの反応を知ることも重要である。

<質問>

職業系高校の進学率の上昇割合について知りたい。労働政策の観点から、3年以内の離職率が高いことが課題であり、離職時のサポートとして、ハローワーク等の公的サービスを高校のプログラ

ム内で紹介することで、再就職支援の連携が強化できるのではないかな。

<回答> 小川教諭

企業からはプログラムへの満足度が高い。3年生の進路は7割が就職、専門学校・大学進学が残り、大学進学は少ない。大久保先生の意見は学校側の課題認識と一致している。3年生の職場見学増加が就職に繋がっており、人材確保に課題を持つ企業がコンソーシアムに協力し、共に地元を盛り上げようとしている。現在も複数の企業が話を聞きたいと希望している。

武生商工の取り組みについて

○大久保委員

1年目の取り組みは試行錯誤の段階だと感じた。運営委員会で示された生徒の成長という目的を踏まえ、新年度は生徒の資質能力の変容を多角的に評価すべきである。多面的評価には信頼性と妥当性の高い評価尺度（ルーブリック）の検討が重要となる。

<金光教諭>

商工スキルのルーブリックを2年生の課題研究に活用したいと考えている。さらに、これに限定せず、学校全体として育成したい力を明確にし、広げていきたい。

<大久保委員>

失敗してどう解決をはかったのか、という視点も大切にしていきたい。大学側も色々な専門家がいますので、大学も利活用していただきたい。活発な高校は校長や窓口となる先生も活発なので、活発な窓口にしていただきたい。入試等において探究の発表も、きれいな発表を期待しているのではなく、失敗から得た学びも期待している。2年目は大学を活用していただきたい。

○吉田委員代理

2年目は本当に大変だろうなと感じている。初年にも関わらずたくさんの取り組みをされていて素晴らしいと思う。

<質問>

資質能力の変容について、生徒自身が自己評価したものか教えていただきたい。

<回答> 金光教諭

どんな力が付いたのか、タイミングやエピソードを交えて生徒に表現してもらった。教科よりも専門科目の方が楽しい、テレビのニュースが分かるようになったなどの記述があった。

<質問>

実際の現場に行って学んでいるというのが素晴らしい。2年生から商工共通科目で行うのは難しいと思うが、どんな形で取り組む予定か。

<回答> 金光教諭

上屋敷工業さんの話でお伝えすると、課題研究が週に1時間しかないので、課題解決を深めるような取り組みはできないが、課題に対する解決策の提案はできると思う。上屋敷工業さんに自分たちで「みんなのための公園」を作るという提案をいただく予定。1学期にアイデアを個人で考え、2学期に商工のグループ活動でそれぞれの専門を活用した解決方法を検討する。そして2学期に自分たちのテーマに合った解決案を発表し、それによって市町との連携や会社のPR、高校生も自分たちの取り組みが形になるというゴールになると良いと思う。

○藤川委員

来年は2年生対象の課題研究をされるということで、プログラムをレベルアップさせれば良いと思う一方で、1年生にも先輩の取り組みを発表して先輩方のやる気を感じさせる機会を設けるべき。企業が求める人材の話について、商工スキルを企業の方とブラッシュアップすると良い。

<質問>

商品開発した商品は通年販売しているか。

<回答>金光教諭

武生商工デパートやカフェでのイベントで販売した。通年で売るということは考えていなかった。

<藤川委員>

売れるに越したことはないが、売れないなら売れないなりの理由を考えたり、チャレンジをしてみたりするのも良いと思う。

○加藤委員

商工スキルや伸ばすべき指標を設定し、自己評価をするというところでそれに振り回されることはないようにすべき。人によって性格があると思うので、良いところを伸ばしてあげる。数字や表向きの成果にとらわれない方が、生徒が楽しいと思えるのではないかと思う。紙面上の成果だけでなく、実質上の成果、自分で良いところの気付きが起きるのが良い。

単純に業務として大変だと思うので、3年されている坂井高校などの横のつながりを活用して、無理なくやってもらうのが教員・生徒にとって良い。

○堀井委員

発表会に1月参加させていただいて、取り組みの中身を知ることができた。報告も素晴らしく、専門性も優れていた。商業メインの発表でしたが、経済を意識していたり、アカデミックな報告もあったりして驚いた。こちらから関係性を構築させていただこうとして、大正校長先生の「対等な関係性を築いていく」という言葉が印象的でした。互いに協力するという関係性が構築できれば良い。

今は企業としては人手不足が課題となっているが、必ずしもそれが続くわけではない。現状は関係性を構築するにあたって、生徒が興味を持った企業を選ぶという仕掛けをつくるのも効果的かと思う。(選ばれなかった企業が拗ねるということはないと思う) 企業側としてもそういう場に出られないということに危機感を覚える。また、企業側がどういう人材を欲しがっているのかについても情報交換を密にしていくと良いと感じている。個人ベースのかかわりでも企業とのつながりができると思う。

○小野田委員

会社の方との連携も積まれている。それぞれのメリット、地域との連携も対等な関係でされているということが伝わった。これからもテスト&トライアルを続けて行って欲しい。丹南・鯖江・武生にはたくさんの企業があり、色んな企業にこのような機会がある。色んな機会を決断ととらえて、いろんなことをやってみて、いろんなことを取り入れて欲しい。成功をすると固定化してしまい、動きが悪くなるので、常に新しい循環をすることも大切である。求める像なども素晴らしい。

沢山の会社を見ているのが素晴らしい。現在労政課でもタイミーと連携していて、職業体験の機会も作っている。高校生も同様に連携をしてもっと先を勉強したいのであれば、大学などとの連携がある。色んなところとの連携にチャレンジしてほしい。商業的に福井の人は稼ぐのが下手。漠然とした入口から生徒が考える機会があると、自由な発想があり、新しい気付きや発見があるのでは

ないかと思う。

福井県の今年度の取り組みと次年度の計画について

○大久保委員

国費による多くの取り組みの成果を、中学生とその保護者に向けて PR する必要がある。特に、進学後の成績向上といったアカデミックな成果や、就職状況、就職先からの卒業生の評価といった具体的なデータを示すことが望ましい。これは、高校時代の探究学習がその後の学びに良い影響を与えていると考えられるためである。さらに、産業的な学びの経験が、企業における活躍に繋がっているデータがあれば見てみたい。今後も大学として協力していくので、これらの成果を積極的に活用してほしい。

○吉田委員代理

職業系高校の生徒が企業と深く連携している点を素晴らしいと感じており、この実態を広く一般に知らせるべきである。現場での実践的な学びという職業系高校のメリットを周知することが重要である。県立大学としても、探究学習の取り組みに協力したいと考えている。

○藤川委員

素晴らしい取り組みが広がっていきながら、素晴らしい人材が育っていくことを願っている。企業とのつながりについてできることがあれば協力させてほしい。

○加藤委員

商工団体として、協力できることがあれば積極的に活用してほしい。個人的には職業系高校の活動内容を知らなかったが、マイスター・ハイスクールの取り組みを通じて、将来やりたいことを見つける生徒もいると思われるため、せっかく実施している取り組みであるならば、その内容を広く知ってもらうことが非常に重要である。

○堀井委員

産業界と高校との間で、より自然で広範な関係性を構築していくことが今後のステップだと考える。商工団体としても協力できることがあり、先生方と連携してその可能性を探ることを楽しみにしている。担当者の異動や変更によって関係性が途絶えるのは残念であるため、組織として関係性を平準化するよう努めると同時に、個人的な繋がりを通じて自然に発展するような関係を築いていきたい。

○小野田委員

現代社会は不確実性が増しており、日本、特に福井県は急速な人口減少と若者の流出に直面している。産業労働部としては、働き方改革を進めつつ人材育成に取り組む一方で、半導体工場の新設などによる人材確保の重要性が高まっている。他県の魅力的な求人も存在する中、コンソーシアムには生徒が自ら地域を選んで就職できる力を養うことを期待する。福井県が選ばれる地域となるよう産業労働部も努力し、今後とも連携や相談をしていきたい。

令和7年度 本事業に期待すること

福井大学 地域創生推進本部 教授 大久保 貢（事業運営委員）

今、先端的な学びの場として坂井高校が注目を集めている。この坂井高校は地域が抱える課題の解決に向け地域のリーダーとして主体的に取り組む人材が求められている。そこで、少子化や公立離れの折、坂井高校に志願する生徒をどのように確保するか、喫緊の課題である。

その対策として次の2つのことを期待する。1つ目は「小学校・中学校との連携活動の推進」で、2つ目は「高大接続(大学進学指導)の充実」である。

1つ目の「小学校・中学校との連携活動の推進」に関しては、産学官連携によるコンソーシアムを活用した坂井高校の充実した教育環境について、小学生や中学生、その保護者、中学教員への理解・促進を図るとともに、生徒による出前授業の実施や卒業生の活躍の姿を中学生、その保護者にPRすること。また、生徒が主役となり、ファッションショーおよびロボットコンテストなどの開催、農作物の栽培方法や調理技術などの指導、そして児童・生徒の課題研究発表会を行うなど、小学生・中学生が専門分野に興味を持つ機会を提供することを期待する。

2つ目の「高大接続(大学進学指導)の充実」に関しては、マイスター・ハイスクールの理念に共感し入学して地域産業に就職する生徒ばかりでなく、更なる知識や技術を習得するために大学への進学を望む生徒も少なからず存在している。そのため高校で実践している探究活動の成果を評価する現行の入学者選抜方法を周知すること。また、大学研究室への体験入学や大学と連携して生徒の課題研究の支援を行うなど、就職ではなく大学進学を選ぶ生徒のための高大接続の充実を期待する。

以上の取り組みにより坂井高校の価値を再発見・再評価し、地域の小・中・高・大との連携を強化した「総合産業高校」の新しい在り方として、日本の産業教育を先導する一つの潮流になることを期待する。

本事業に関わる「大学」の役割

福井県立大学 副学長(地域連携) 北島 啓嗣（事業運営委員）

人手不足が深刻な福井に対し求められることは、数を追うこともあるが生産性向上に資する教育の質の向上であろう。このマイスター・ハイスクール事業は、「習っていること」が空理空論では、社会にどのように使われ、どう役立っているかを生徒一人一人が実感できるプログラムであり、その意義は非常に高いと思う。そしてそこに関わる高校の先生方をはじめ、産業界、そしてコーディネーター、自治体、そして参加している生徒たちに素直に敬意を表したい。

ただ、我々、大学の立ち位置がいささか不明瞭で、参加している私にも戸惑いがある。本事業の方向性は基本的には進学よりも直接的に人材を地域に送り出すことでもあるので、進学先である我々大学としてはどのような役割を果たすべきなのかを改めて考えていきたい。積極的に考えれば、例えば18歳で就職し、実社会に出たとしても、技術の進歩や社会の変化、あるいはキャリアの変化(例えば管理職になる、起業する)といった際に、改めて最新の技術や学問を学び、また管理職や起業に必要な経営の知識を改めて学ぶといったリカレント、リスキリングの役割を大学が担う必要があるだろうと考える。

実践型教育が育む産業人材とキャリアビジョン

福井県商工会議所連合会 事務局長 藤川博史(事業運営委員)

マイスター・ハイスクール普及促進事業の拠点校におかれましては、それぞれの特色を活かし、地域産業と結びついた実践的な学びを通じて次世代の産業人材を育成いただいておりますことに感謝申し上げます。

令和6年度の拠点校の取り組みを拝見し、先生方が創意工夫を凝らし、企業と協働した課題解決型学習やコンソーシアムを活用した教育に積極的に取り組まれていることに感心することしきりでした。職業系高校ならではの実践的な学びの魅力を改めて実感するとともに、地域産業と教育が一体となる意義を再認識いたしました。

生徒の皆さんにとりましても、地域企業と関わりながら現場で学ぶことは、地元産業への理解を深めるだけでなく、産業界で求められる社会人基礎力を身につける貴重な機会になっています。また、高校卒業後の地元就職はもちろん、大学や専門学校等へ進学する際にも、知識や技術をさらに磨いた上で、福井で活躍する明確なビジョンを持つことができることは、大きな意義を持つと考えます。

このような実践を重視した学びを広げていくことは、多様なキャリア選択が可能な社会を築く上で不可欠です。令和7年度には、この取り組みがさらに深化・発展し、職業教育のモデルケースとして普通科高校を含む福井県全体へ広がることを期待しております。また、今後の継続的な発展を見据え、担当される先生方や関係者の皆様の熱意だけに依存せず、学校全体で支え合う持続可能な体制を構築することが重要です。そのためにも、学校と産業界の連携をより一層強化し、本県産業を担う若者が福井で学び、福井で活躍できる未来を描けるよう、マイスター・ハイスクール普及促進事業のさらなる発展を心より期待しております。

令和6年度、本事業に関わっての感想

福井県商工会連合会 総合支援センター所長 加藤 剛 (事業運営委員)

令和6年度、本事業に関わって、何より、「職業系専門高校の素晴らしさ」を実感することができました。

氷河期世代である自分自身の認識として、失礼ながら、職業系専門高校は進学系高校に進めない生徒が消去法の中で選択する選択肢との認識が強くありました。しかしながら、本事業を通じて、専門性を持たせる学びを提供し、地域とも密着しながら、地域産業を支える即戦力に近い人材を育成していることを知ることができ、その素晴らしさを知ることができました。産業界に位置し、同様に地域密着の活動を行っている我々商工会組織としても、今後、協働を進める必要性を感じました。

ただ、一方で、社会一般的に、職業系専門高校のこのような取組みの認知度はまだ低いものと想像され、大学進学以外の選択肢として、明確な目的を持った学びが得られることについて、認知度向上の必要性も感じました。せっかくの有益な取組みがもっと世間一般に認知されて欲しいし、認知されるべきと感じました。

特に、高校生の時期に、同世代だけではなく社会との関わりを持つことで、今後、社会人としての基盤となる社会での協調性が大きく養われているものと感じています。

また、長期的な視点で見ても、流動的なものである生徒が地域産業の固定資産になり得ること、先生もこれらの取組みを継続的に行うことで、地域高校教育ひいては地域産業の有益な固定資産になり得る可能性を感じました。

このような取組みがより広がり、世間一般の認知度がより高まることで、生徒や先生、学校はもとより、地域産業の持続的発展に大きく寄与するものと感じていますので、産業界の一員として、今後も多方面からの協力・協働を進めたいと考えています。

専門高校の学びが広げる未来

福井県中小企業団体中央会 連携支援課 課長 堀井 真理生(事業運営委員)

本事業に運営委員として参加し、専門高校の生徒たちが自発的に、生き生きと学ぶ姿に深く感銘を受けました。「地域」や「産業」と「教育」の連携を通じて、生徒たちは単なる知識の習得にとどまらず、地域社会を支える役割を担うという意思を持ちながら学びに取り組んでいることが伝わりました。

とりわけ印象的であったのが、地域産業に関連した研究発表です。生徒たちは地域の特性を活かしたアイデアや技術を提案し、実際にどのように産業に貢献できるかを真剣に考えており、論理構成能力、課題解決能力、そして創造的思考が実践的に育まれる様子がうかがえます。

加えて、本事業の成果、先生方の専門高校における教育姿勢等、私が関わったそれらの一端を総じて捉まえると、大学進学が必ずしも唯一の選択肢ではないということを実感させられます。本事業では、実践的な学びによって生徒たちが社会に貢献できる力を早期かつ的確に育まれており、従来の学歴社会の枠組みを超えた選択肢を提供しています。こうした取り組みは、我が国の学歴の概念が変わるきっかけとなり、高校生年代における様々なキャリアパスを開く可能性を有するものと感じています。

今後は、さらに多様な分野で生徒たちが躍動できる機会を広げることが求められるでしょう。地域企業との共同研究や高等教育機関との協働を通じて学びの幅を拡充できれば、より充実した教育環境が整うと感じています。また、成果を発信し実社会へとつなげるための仕組みが強化されれば、生徒たちの努力を社会に表現できるでしょう。その際、取り組みの平準化に努め、すべての生徒が均等に学びの機会を継続的に得られる体制づくりも重要であると考えます。専門高校の生徒たちが自らの可能性を広げ、成長していくことを心より願っています。

令和6年度、本事業に関わったの感想

福井県産業労働部 労働政策課 副部長(労働政策) 小野田謙一(事業運営委員)

福井県においては、全国で最も高い有効求人倍率が約7年間続いており、県内企業では人手不足が大きな課題となっています。そのような中、産学連携コーディネーターが支援しながら、地域産業における実践的なスキルを育む本事業は、企業の人材確保・育成に向けた有効な取り組みであると考えており、令和6年度に本事業に携わってくださった県内の企業や団体、大学等の皆様に感謝申し上げます。

私自身も、令和6年度の事業運営委員として本事業に携わり、拠点校である坂井高校および武生商工高校の取り組みを拝見しました。企業と協働しながら地域課題を探究し、解決に導いた事例を熱心に発表していた生徒たちがたいへん印象に残っており、今後、本事業での学びを最大限に生かし、地域産業の発展に向けて大いに活躍して下さると信じています。

社会情勢や産業構造が絶え間なく変化する中、そのような状況に即応できる産業人材を県内で育成するためには、本事業をより深めていくとともに、本事業で拠点校が得た知見について、他の専門高校に横展開していくこと、また、将来の進路を考える中学生や小学生に対し、本事業の取り組みや成果をアピールしていくことが必要であると考えています。令和7年度についても、6年度の取り組みをさらに発展させ、産学官が一丸となって地域産業を担う人材を育成できる事業となるよう、ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

マイスター・ハイスクール普及促進事業＜先進的取組型＞
【産学共創による輝く次世代の地域人材育成システム推進事業】

発行日 令和7年 3 月

発行者 福井県教育委員会

（福井県教育庁高校教育課内）

〒910-8580 福井県福井市大手3丁目 17 番 1 号

TEL 0776-20-0570 FAX 0776-20-0669